

## 5 - 13 三河における地殻変動観測 (1976.1 ~ 1983.4)

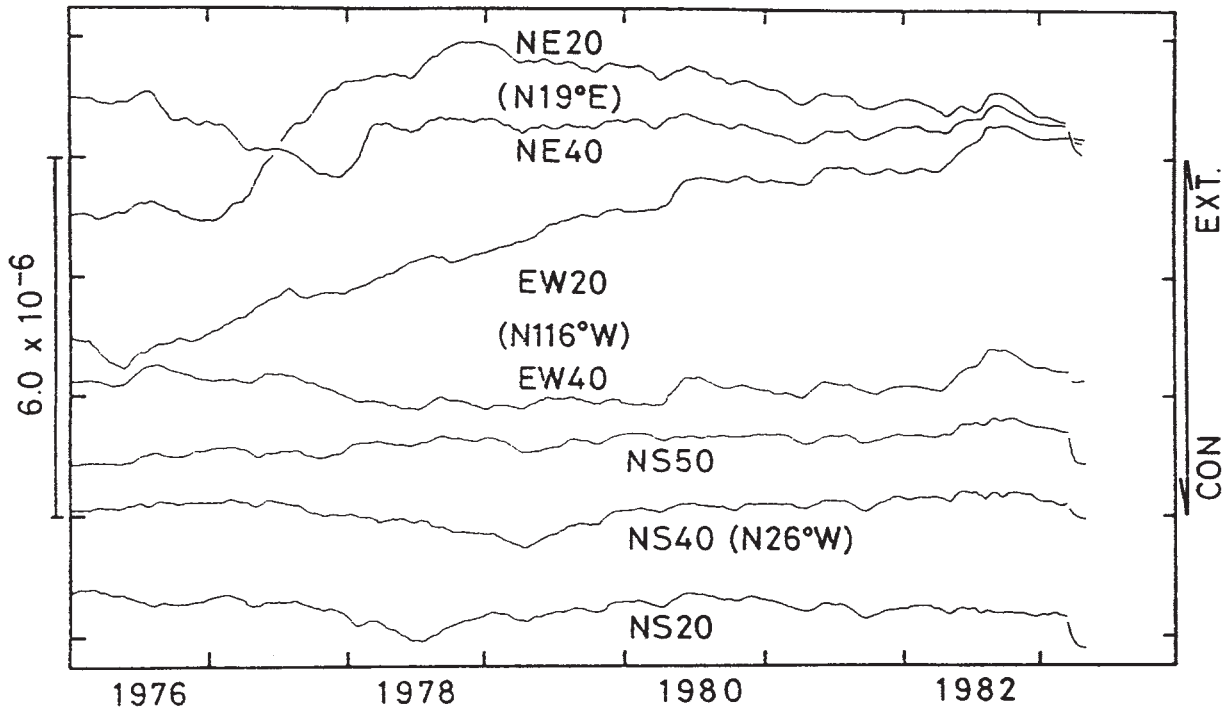
Crustal Strain Observations at Mikawa (January, 1976 - April, 1983)

名古屋大学 理学部三河地殻変動観測所  
Mikawa Crustal Movement Observatory  
School of Science, Nagoya University

三河地殻変動観測所における 1981 年までの伸縮変化については前報で報告した<sup>1)</sup>。第 1 図は前報と同様に伸縮変化から 3 段のタンクモデルを用いて降雨の影響を除去した結果である。1983 年 3 月 18 日に観測所の東方に地震が発生 ( $M = 5.6$ ,  $\Delta \approx 20\text{km}$ ) したが, 地震前には目立った異常変化はなかった。しかし, 地震後には顕著な余効変化<sup>2)</sup>が観測された。余効変化の時定数は約 4 日である。この余効変化の大きさが伸縮計による数年間の経年変化の大きさと同程度の成分もある。余効変化の例を第 2 図に示した。

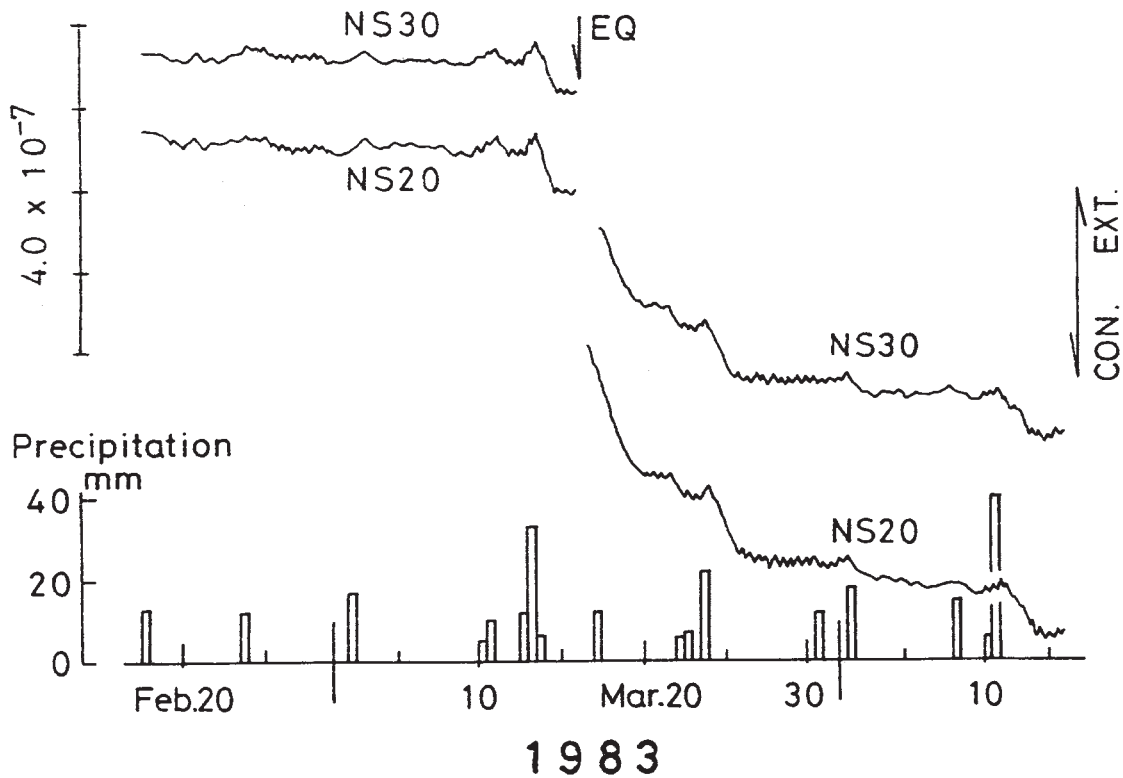
### 参 考 文 献

- 1) 名古屋大学理学部三河地殻変動観測所: 三河における地殻変動連続観測 (1974 ~ 1981), 連絡会報, **28** (1982), 228 - 229.
- 2) 山内常生: 地震に伴う弾性余効について, 測地学会誌, **21** (1975), 75 - 80.



第1図 三河における伸縮変化

Fig. 1 Variation of the extensometer readings at Mikawa.



第2図 静岡県西部の地震（1983. 3. 18；M = 5.6）の地震に伴う余効変化

Fig. 2 The elastic after-effects observed at the time of the earthquake of March 18, 1983.